

南信州広域連合第5回広域連合会議 結果報告

日時：平成28年8月8日(月)13:45～15:14

場所：長野県飯田合同庁舎 3階 講堂

1 開 会…13:45

【出席者】13市町村長・売木副村長・佐藤副管理者

〔下伊那地方事務所〕山本所長・布山副所長・細野地域政策課長補佐兼企画振興係長

〔飯田建設事務所〕西元所長

〔飯田保健福祉事務所〕寺井所長

〔中部地方整備局 天竜川上流河川事務所〕椎葉所長・加藤調査課長

〔社会福祉法人ひだまりの郷あなん 阿南学園〕三浦施設長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕関島消防長・三石消防次長兼飯田消防署長

〔飯田環境センター〕田見事務長・北原事務長補佐兼庶務係長兼新焼却施設整備担当専門主査・窪田管理係長

【事務局】渡邊事務局長・塚平事務局次長・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・前沢庶務係主事

2 広域連合長挨拶

この度の村長選において見事当選された清水売木村長・金田下條村長にまずもってお祝い申し上げます。本日売木村長不在のため、下條村長から後ほどご挨拶いただきたい。こうした新たな体制において広域連合会議がスタートできることを嬉しく思う。本日の協議・報告事項では、伊藤前下條村長が退任されたことに伴い、現在副連合長が空席となっているため、まずは副連合長の選任を諮らせていただき、その後当圏域の各課題に関する事項について協議していただきたい。広域連合として変化の激しい中ではあるが、これまでの議論の積み上げと共に、新しい体制で様々な議論を交わす中で広域連合としての方向性をしっかりと見出し、この地域をあげて環境への対応ができるようお願い申し上げます。

金田下條村長挨拶

7月25日に下條村長として就任した。就任後ようやく3週間目を迎え、まだ村の内情をすべて把握しているわけではないが、この地域は一体となって取り組むことが非常に多いかと思う。私も微力ながらこの地域のボトムアップを求めて皆様方と一緒に取り組ませていただきたい。ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

3 協議・報告事項

(1) 副連合長の選任について

…規約の説明（渡邊事務局長）

規約第11条 執行機関の組織 に「広域連合に、副広域連合長3人以内を置く」とある。これについては平成23年12月（部会設置時）に規約の改正を行い、「3人」から「3人以内」へ変更した。また、規約第12条第3項 選任の方法 に「副広域連合長は、広域連合長以外の関係市町村の長のうちから関係市町村の長がこれを互選する」とあり、規約第13条第1項 任期 に「副広域連合長の属する市町村の長としての任期による」とある。今回については前副広域連合長の残任期間ということではなく、市町村長としての任期によるということをお願いしたい。

…牧野広域連合長より

規約について特段提案等がなければ、私の方から提案させていただく。副連合長についてはこれまでの慣例に従い、町村会長にお願いしたいと考える。先の町村会において、この度新しい町村会長は松島泰阜村長に決定した。したがって南信州広域連合の副連合長として、私としては松島泰阜村長にお願いしたい。この提案について諮らせていただく。

（「異議なし」との声あり）

それでは松島泰阜村長には副連合長席にお着きいただき、一言ご挨拶いただきたい。

…副連合長挨拶

市町村圏協議会から広域行政組合（一部事務組合）へ移行する際に負担金の割合についての問題が生じたが、当時の田中前飯田市長に解決していただいたことが非常に印象に残っている。その時の流れが現在の広域連合にも引き続いている。そういった意味でも飯田市が中心であり、飯田市あつての広域連合と言える。中心市である飯田市が負担割合を決定してくれたということが当広域連合の原点になっていると思う。そして牧野飯田市長が就任後は「地域政策そのものは、国ではなく地域が担う時代になっている」と就任以来ずっと発言されているが、私もまったくそのとおりでと思う。そういった意味でも広域連合の役割は非常に大きいと思う。飯田市を中心として地域政策を担えるような広域連合を目指すということを大切にしながら、良い地域にしていくために微力ながらその役割の少しを応援させていただければと思います、就任させていただいた。よろしくごお願い申し上げます。

…牧野広域連合長より

松島副連合長をはじめ各部会長と一緒にあって、正副連合長部会長会議もやらせていただければと思っている。また広域連合の中においても、部会内での議論の積み上げを尊重しながら協議を進め、しっかりとした方向性を見出していきたい。重ねてよろしくごお願い申し上げます。

(2) 天竜川上流河川事務所「水防災意識社会再構築ビジョン」について

…資料2による説明（椎葉所長・加藤調査課長）

本日は広域連合会議の議題の中で、天竜川上流の水防災意識社会の再構築ビジョンに関する取り組みについて説明させていただく。

昨年9月に鬼怒川で破堤する被害が発生したが、その時に課題となった避難勧告の遅れ等について、国交省としてどう取り組んでいくかというビジョン（＝水防災意識社会再構築ビジョン）を昨年12月にとりまとめた。今後はこのビジョンに基づき、各水系毎の取り組みが進められていくことになる。天竜川上流河川事務所においても、地形的に急峻で地質的に脆弱な天竜川の中で、水防災意識社会の再構築に向けての取り組みを進めていきたいということで、本日その取組方針について説明させていただく。通常は水防連絡会の場を通じて説明するところだが、急遽国交省から急いでとりまとめてほしいとの要請があり、この広域連合会議の場を借りて説明させていただく次第である。具体的な取り組みにあたっては各市町村長の協力をいただき、少なくとも人命の被害だけでも防ぐことを連携して取り組んでまいりたい。よろしくごお願い申し上げます。

本取組方針(案)についての説明。河川にはそれぞれの地域特性があるため、天竜川上流域では天竜川上流の地域特性を生かして、地域に合った取り組みを目指していこうと考えたもの。資料別紙1は流域の各市町村に実施した洪水に対応する現状についてのアンケート結果から課題等をまとめたもの。この課題について、今後行っていく取り組みをまとめたものが「水防災意識社会再構築ビジョンに基づく天竜川上流域の減災に係る取組方針(案)」である。

取組方針の具体的な内容については3つの柱からなる。1つ目は、大規模な氾濫被害が昭和58年9月の台風10号以降発生していないことから「この地域は洪水被害が起らない」と思われがちだが、大雨が降れば当然危険が生じるため、地域住民にもう一度認識してもらうこと。これは水防災意識の社会全体として取り組んでいくひとつの大きなテーマになっている。2つ目は、天竜川は雨が降るとすぐに水位が上がる急流河川であるため、早い情報発信や情報発信の質を向上させて、住民の早期の避難判断につなげること。3つ目は、各行政機関が取り組んでいる内容について学び、自身の組織で生かすための防災機関との連携について。

概ね5年間で取り組みを実施していく方針。資料15ページの表は、上記の3つの柱の細かい部分を箇条書きしたものであり、アンケート結果に係るそれぞれの課題に対応している内容になっており、

その他目標時期・取組機関が記載されている。なお、この表については各防災機関が実施する学習会やイベント等を通じて、地域住民が一体となって水防災に対して意識を高めていこうという内容になっている。

16 ページ上段については、「想定最大規模降雨における浸水想定を公表する」という水防法の改定に伴い、天竜川上流河川事務所で準備を進めている事柄が記載されている。16 ページ中段については飯田市が始めた興味深い取り組みの例。水害は被害が発生するまでにある程度のリードタイムがある。雨が降り、大雨になるかもしれないと判断した時に避難所が空いていないことがあるため、パートナーシップ協定を結んで知人宅や親戚宅に身を寄せることができるような取り組みも有効ではないかという話を飯田市から聴取した。よってこの飯田市の例を中心に、的確な避難行動のための取り組みについて記載されている。16 ページ下段については、今住んでいる位置の危険度をスマートフォンアプリを活用することで把握することができるような取り組みの内容が記載されている。

17 ページはハード面の整備について。主として堤防の強化・整備に係る内容。

18 ページについては、各行政機関が防災計画を構築していこうという内容。水防災タイムラインの実施や、水害を減らすためのダム操作方法の改善について検討するといった内容が記載されている。

以上を提案させていただくことで、何か目標を持って社会全体で取り組んで、水防災に立ち向かっていこうという意思決定をしていきたいと思っている。先週行った上伊那での会議と本日の会議をあわせて、目標の設定とさせていただきたいと思っている。

【質疑】（熊谷高森町長）

①本日の説明を聞くと、どちらかと言うとソフト面の説明が多いように感じる。ソフトも必要なのかもしれないが、堤防の整備・強化に力を入れていただきたい。

②資料内の「目標時期」について。「引き続き実施」とあるが、いつ実施されるのかわからないと住民は不安になる。10年後でも20年後でも、具体的な数字が入っていれば住民は安心すると思うので、そういった実施計画を作って示してもらいたい。

③ハザードマップ・浸水想定区域について。堤防の改修により、浸水想定区域から外れる地域が出てくる可能性はあるのか。

【応答】（椎葉所長・加藤調査課長）

①今回の取組方針は想定される災害規模を基本に考えられており、ハードだけでは防ぎきれないという限界を認識した上で、せめて人命だけでも救うという観点からソフトが重視されている。一方で「ソフトのためのハード」という考え方もあるため、堤防の質的強化・流下能力対策（資料17 ページ参照）等の整備を進めることで少しでも避難のための時間を長く確保するという観点もある。ソフトが有効に機能するようにハードも整備していくということは引き続き行っていきたい。

②河川整備基本方針・河川整備計画の中で、当面の実施する目標及び具体の計画について、できるだけわかるように記載している。今後も具体の事業については、できるだけわかりやすく説明させていただく。

③浸水想定区域図自体は、現在水防法で行っているのは想定災害であり、1000分の1以上のごく稀に起こる最も大規模な洪水に対して行っている。よって浸水想定区域図は、堤防が整備できなくて破堤する可能性もあるという前提で作成しているため、堤防の改修により浸水想定区域から外れるということには直接結びつかない仕組みになっている。

【要望】（熊谷高森町長）

町村では、地域内を流れている川の清掃や草刈りを住民ボランティアで行っている。住民からの「なぜ河川清掃が必要か」という質問には、草が長く伸びているよりは短く刈っておいた方が水害の被害を抑えられるのではないかとといったような説明をしているが、もし理論的な考え方があるとなれば住民にも伝えて、現在行っているボランティア活動が役に立っているということも住民に伝えていくことができれば、住民の意識の高揚に繋がると思う。どこかの場で触れていただきたい。

【応答】（椎葉所長）

堤防及び河道断面内の草木の除去は非常に重要。その重要性だけではなく、草木除去がどのような効果を生むかという部分について、住民にわかりやすく説明していきたい。まさに今回のビジョンは住民の防災意識を高めるという趣旨もあるため、質の良い情報提供に努めていきたい。

(3) 信州大学航空機システム共同研究講座コンソーシアムについて

…資料3による説明（渡邊事務局長）

7月29日に行ったコンソーシアムの役員会の概要報告。信大との共同研究講座の内容等について担当教授から説明があった。

実施体制について。信大の中に大きく「人材育成」と「研究開発」の部門がある。人材育成については、大学院総合理工学研究科工学専攻の中に航空機システムに関するプログラムが開設される。ただ、信大では平成28年度・29年度にかけて、文科省のプログラムにより大学院の見直し作業に着手されているとのこと。そのプログラムを策定する段階でこの航空機システムが具体化していなかったということもあり、平成28年度・29年度についてはあまり外に対して大々的にPRすることができない状況。平成29年度以降はその点について見直しをいただけるとのこと。研究開発については、飯田下伊那に限らず県下他地域、あるいは岐阜・愛知等の企業との共同研究ということで要望した。

年次計画について。平成29年度から具体的に始めていく。すでに信大工学部4年生の中で2名ほど本講座を希望しているとのこと。コンソーシアムとしては、メンバーの拡充及び平成29年度から4年間の費用の捻出といった問題について具体的に協議していくことになる。その点については新しく役員会に広域連合の立場で出席をお願いし、幹事会等の中で出てきた事項について諮ってまいりたい。

【質疑なし】

(4) 飯田環境センターから

①次期ごみ処理施設整備進捗状況について

②桐林クリーンセンター稼働状況について

…資料4による説明（田見事務長・佐藤副管理者）

①次期ごみ処理施設整備進捗状況について（資料4-1）

稲葉クリーンセンターの施工状況。

炉室についてはストーカ炉・減温塔・バグフィルター等の設置を完了し、今月からストーカ炉上部に設置するボイラー機器の設置を行う。

ボイラーについては11月下旬の設置完了を予定。灰処理部分については灰の搬出設備及び灰を貯蔵するピットが完了しており、現在2階部分の建方を施工中。

炉室・灰処理部分については、ボイラー機器以外の大型機器の設置は概ね完了。

ごみピットについては、現在地上部1・2階部分の壁のコンクリート打設を完了。

プラットホームについては基礎関係が完了し、鉄骨・壁等の建方を施工中。

ランプウェイについては床板コンクリート打設が半分完了し、現在残りのコンクリート打設を施工中。最終的に表面に防水加工を施工し、アスファルト塗装で仕上げる予定。

現在の進捗状況は全体の約30%で、特段の問題なく計画どおり進捗している。

②桐林クリーンセンター稼働状況について（資料4-2）

本資料は7月28日に行われた竜丘地区との連絡協議会で示したもの。

ごみの搬入状況（平成27年度実績分）について。委託収集が16,000トン余、直接搬入が8,000トン余、合計24,500トン余であり、前年度対比101%。近年の状況については全体量・委託収集・直接搬入いずれも横ばいの状況で推移している。

ごみの組成・分析について。多少焼却不適物・不燃物が混入している状況だが、概ね分別はできていると考える。今後も適切なごみの分別について、各構成市町村担当者と周知活動を行っていく。

焼却残渣の状況について。発生量全体については処理量の概ね7～8%であり、内容については資料参照。引渡状況については、集じん飛灰等は最終処分場へ搬入し埋立処分。スラグはストックヤードで保管し公共事業に営利してまいりたい。鉄・アルミは処理業者に売却処分。

環境測定について。各試験データについては資料参照。すべての項目において地元との協定値未満。今後も安定稼働に努めてまいりたい。

運転管理・設備点検整備状況について。資料に記載のと通りの点検整備・補修等を実施し、常に設

備機器が正常な状態での安定稼働を図っている。桐林クリーンセンターはあと1年余の稼働期間となったが、稼働期間中においては運転管理を徹底し安定稼働に努めてまいりたい。

【補足】（佐藤副管理者）

去る7月29日に、循環型社会形成推進交付金の予算確保について小林環境事務次官及び関係国会議員へ要望活動を行った。今年度の交付金は94%程度の交付状況となっているが、補正予算も含めて国で予算確保について努力しているという話があった。当方からは「もし補正予算が出れば、前倒しも含めて施工の準備があるのでぜひよろしくお願ひしたい」という話をしてきた。関係国会議員は在室の方が少なかったが、衆・参に分かれて要望活動を行った。当日は売木村長に首長代表として広域連合から出席していただき、阿智村長にも最終処分場の関係で要望活動に加わっていただいた。

(5) 飯田広域消防から

①出動状況について

②熱中症について

…資料5による説明（三石消防次長兼飯田消防署長）

①出動状況について（資料5-1）

昨年同日と比較した8月2日現在の市町村別火災発生状況について。今年の総合計56件は昨年と比較して1件の減少。

平成28年8月2日の火災・救急・救助の出動件数について。昨年同日と比較して、火災は1件の減少、救急は111件の増加、救助は14件の減少。

②熱中症について（資料5-2）

4月25日から8月3日までの状況について。救急搬送人員は36名で、昨年同日と比較して19名の減少。年齢区分「少年」の屋外で発生した7名は11歳～14歳が運動競技中に体調不良となった事例。これについては昨年同日と比較して6名の増加。年齢区分「高齢者」については昨年同日と比較して17名の減少。昨年との気温差が影響していることに加え、各自・各家庭が熱中症に注意されるようになり、予防にあたられているのではないかと考える。本調査は国が調査期間を定めており、10月初旬まで継続して実施しながら随時状況報告させていただく。

【質疑なし】

(6) 看護師確保に対する対策等について

…資料6による説明（渡邊事務局長）

去る8月1日に飯田医師会から広域連合に対して「看護職員確保のための奨学金制度創設に関する要望書」の提出をいただいた。

その要望書には「准看護学院設立に関してはもう少し時代の流れを俯瞰し、リニア時代が到来し、人口予測が増加に転じることがあれば、再検討することとなりました」とある。よって准看護学院設立については一旦棚上げという結論をされたということ。

また、「飯田医師会と共に、飯伊医療圏全体を対象とした新たな奨学金制度の創設についての検討をして頂けるよう、南信州広域連合に要望します」とある。これについては環境・福祉・医療の部会でも先行的に検討していただいている経過があるが、こうした要望をふまえて改めて部会で整理していただき、また全体の場に諮っていくような段取りをとってまいりたい。医師会からは、「准看護師の養成のための奨学金ということではなく、看護師全体についての充足を図っていくという趣旨での奨学金である」ということを補足として聞いている。まずはそういった現状の報告をさせていただく。

【部会より】（松島副連合長）

この件については、看護師確保対策として当面できることは奨学金ということで過去に一度検討した。現在も医師会の流れをふまえて検討している。できれば来月・再来月のうちに部会案として示したいと思っているが、制度の概要の論点だけお願ひしておく。

1点目は、今は4年制大学志望者が多いので、毎年5人を目途に4年間で最高20人、1人当たり月5万円程度で年間60万円出すと、1,200万円程度のお金が必要になる。その1,200万円を誰がどのよ

うに負担するかといった時に、現在の広域連合の負担金で出した場合、各構成市町村の中で「うちは10年間お金を出しただけで、1人も看護師を養成できなかった」ということが起こり得る可能性があるが、それでも当地域の課題ということで構成市町村全体で負担するのかどうかという点。

2点目は、一定期間働いた後にこの地域に戻って働いてくれる人には、奨学金の償還を免除するという方向の奨学金制度を考えている。ただ、「一定期間」の詳細については決まっていない。

3点目は、市町村との奨学金併用（例：広域連合5万円＋構成市町村2万円）も行ってよいのではないかとという点。

最終的な議論は「お金をどのように負担していくか」というところかと思われる。今からそれぞれの立場で考えていただければと思う。

(7) 長野県議会「危機管理建設委員会」現地調査について

…資料7による説明（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

8月24日に実施される長野県議会「危機管理建設委員会」の現地調査に伴い、当広域連合としては下伊那土木振興会から長野県建設部長へ提出した資料7の内容について陳情させていただきたい。なお、市町村別提言項目の「提言箇所位置図」を添付した。赤い数字については道路関連、青い数字については治水河川関連。現地調査当日については、広域連合会議で確認いただいた首長の皆様をお願いをさせていただくが、詳細は後日連絡させていただく。

【質疑】（牧野広域連合長）

これは誰が出席するか、決まっていれば教えてほしい。

【応答】（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

正副連合長、正副土木振興会長及び建設・経済・産業専門部会長に出席していただき、対応をお願いしたい。

【質疑】（松島副連合長）

具体的に連合長は何の話をして、その他何人が発言するのか。

【応答】（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

連合長には本資料の前段階での部分の文章をお願いしたいと考えている。本資料の陳情項目については土木振興会と相談して割り当てる予定。

(8) 南信州キャンペーンについて

…資料8による説明（秦野事務局次長補佐兼広域振興係長）

8月17～19日に銀座NAGANOにて開催する「南信州キャンペーン in 銀座」の詳細報告。各市町村へ声掛けをしたところ、今回は阿南町及び平谷村に参加していただくことになった。夜については、平成29年に実施される信州デスティネーションキャンペーンの取り組みの一環として、長野県観光大使の峰竜太さんを店長にお迎えして、JR及び大手旅行代理店の旅行企画担当者の皆様をお呼びして、南信州のプレゼンを行う予定。その他、資料に掲載した催事で南信州を知っていただく取り組みを予定している。ぜひお立ち寄りいただきたい。

【質疑なし】

(9) 阿南学園における夜間を中心とした支援体制の点検について

…資料9による説明（三浦阿南学園施設長）

7月26日に発生した神奈川県「津久井やまゆり園」の事件に関して、事件当日に厚労省の関係部局より、入所者の安全確保についての通達があった。それに伴い、阿南学園では今一度現状の見直し・再確認を行った。

夜間について。19時から翌朝7時30分の間において現在69名が生活しており、生活支援3名・管理宿直者1名の計4名が69名の支援にあたっている。その4名はそれぞれ専用の携帯電話で連携をとるようにしており、20時には各寮の出入口を施錠することを徹底している。なお、毎年5月下旬に地元住民・阿南町消防団・阿南消防署及び阿南警察署の協力を得て夜間避難訓練を実施しており、地元・

川田区とは非常時に駆けつけて協力をさせていただける応援協定を結んでいる。

昼間について。上記 69 名に加え、7 名が来園して合計 76 名が在席しており、職員はローテーションを組みながら概ね 20 名程度が支援にあたっている。

阿南学園は地形及び建物の構造上フェンスを設置していないため、日中の園舎への出入りについては原則自由。また居室にはエアコンがないため、夏場は網戸で過ごさざるを得ない状況にあり、完全な施錠は困難であるが、出入口ドアの施錠の徹底・宿直者による巡視・夜勤者による人員チェック及び相互確認等を行い、安全確保に努めている。なお 7 月 26 日には、消防署へ通じる非常通報装置による通報をひとつの手段として有事の際には考慮することを周知徹底した。また、9 月 1 日の防災訓練には阿南警察署員を講師に招き、防犯等についての講習等を予定している。

このような事件が阿南学園では起こらないように、利用者の安心・安全に努めてまいりたい。

【質疑なし】

(10) 後援依頼について

…資料 10 による説明（北原事務局次長補佐兼庶務係長）

「第 17 回 EMC シンポジウム IIDA2016」（公益財団法人南信州・飯田産業センター理事長）の後援依頼。平成 28 年 10 月 20 日（木）～21 日（金）開催。詳細については資料参照。後援予定者についてもあわせてご覧いただきたい。

以上について、後援承諾のご協議をお願いしたい。

【質疑なし、後援承諾】

4 長野県

●下伊那地方事務所

…口頭による説明（山本所長）

3 点お話をさせていただく。

①元気づくり支援金について。二次募集を行い、1 億 1,000 万円の枠のうち現在までの採択額が約 8,500 万円で、配当残額が約 2,500 万円となっているため、8 月 1 日から三次募集を行っている。配当残額を有効に使っていきたいと考えているため、各市町村の皆様もぜひ積極的に応募いただきたい。

②移住・定住促進について。5 月の移動知事室において、阿智村長から「移住・定住について県がコーディネート役をするように」という提案をいただいた。それを受け、管内市町村及び県の関係機関が集まり担当者会議を行った。その中で「管内の市町村がまとまって移住・定住に取り組んでいくのはどうか」という意見をいただいた。そのことについて、現在市町村の皆様と一緒に参加する意向があるか調査中。ぜひ皆様も前向きに考えていただき、県としても積極的に取り組んでいきたい。

③現地機関の見直しについて。県での検討が進んできており、だいぶ内容が煮詰まってきた。次回の広域連合会議において時間をいただき、見直し案の概要を説明させていただく予定。

【移住・定住促進について】（渡邊事務局長）

広域連携の調査について。過日「広域連合でもできないか」という話をいただいた経過があり、また移動知事室でも意見をいただいたということ。これについては、私共としても地方事務所地域政策課と一緒に相談させていただいている。各市町村担当課長宛に文書が届いているが、首長の立場でも確認をお願いしたい。

【質疑】（深津松川町長）

元気づくり支援金について。非常に良い制度だと思っているし、精一杯利用していくべきだと思う。ここ数年間の傾向として、三次募集までいく傾向があるのかどうか。それとこの補助制度は予算を少なくしてきている傾向があるが、この補助制度についてはぜひ維持をお願いしたいので、全体の流れについての傾向をお聞かせ願いたい。

【応答】（山本所長）

最近の状況について。毎年二次募集までは行っているが三次募集は珍しい。今年は 3 月にお練り祭りがあり、それに向けて昨年度後半にかけて各団体・各市町村が一生懸命取り組んだ反動が出ている

のではないかという分析をしている。

全体の流れについて。全体の枠として10億円でスタートしたところ、現在は県全体の枠が8.5億円。県全体の中で元気づくり支援金について見直しの検討をしているが、額を大きく減らすというような検討はしていないとのこと。内容面についてより良い制度にしていくためにどうしていくかという検討をしていると聞いている。また来年度の地域振興局の検討も迎えるため、それとあわせてどんな形になっていくのかという点もある。状況がわかり次第情報提供させていただく。

【質疑】 (熊谷阿智村長)

阿智村も山の関係で「阿智村セブンサミット」として元気づくり支援金を使わせていただいた。8月11日は「山の日」が制定され、山というものがここ2・3年で盛り上がってきている。山の観光に関連して登山口が多くなってきているかどうか、情報として教えていただきたい。飯田下伊那地区もピクニック感覚で登れる高くない山があるが、これからの時期に向けて山の政策ということもやっていかななくてはならないと思う。こういった元気づくり支援金を活用して進めていければよいと思う。

【応答】 (山本所長)

具体的な数字が手元にない。この地域の登山者の数を正確に把握するのは難しいが、掴んでいる数字では他地域に比べて多い方ではない。よって山岳観光を振興していくことは大変重要と考える。いろいろと勉強しながら進めてまいりたい。具体的な数字等が手に入ったら情報提供させていただく。

【質疑】 (熊谷高森町長)

移住・定住促進の連携について、どういう構想・イメージをもっているか。

【応答】 (山本所長)

まずは管内の市町村の皆様が移住・定住についてどのような取り組みをされていて、どのように考えているかということ情報を共有していただくために集まっていた。そして県が移住・定住に関して今どのような施策を打っているかということを説明した。それをふまえて「市町村が単独で首都圏に出て移住・定住の取り組みを行っても、知名度の点から考えても難しいため、南信州という形でまとまればよいのではないか」という意見が出た。それが実際に可能かどうか、皆様にアンケート調査を実施している。中には「全市町村がまとまらなくても、できることからまとまって取り組んでいければよいのでは」という意見も出ている。できるだけ前向きに取り組んでいければよいと考えている。またいろいろな意見をいただきたい。

【意見】 (松島副連合長)

泰阜村も首都圏に出て取り組みを行っていたが、県が移住・定住に取り組むようになってからは他地域と一緒に行くようになった。ところが安曇野・軽井沢・諏訪といった人気の高いブースに立ち寄る人はいるが、泰阜村ブースに来る人は1日開放しても1人か2人。知名度がある下條村もそれほどでもない様子だった。人気の高い地域と一緒に行くより、昔のように単独で行った方が誘客できた。小さい規模でないと、とても太刀打ちできない。そういった中で、「飯田下伊那」という単位で一度やってみるのはいいと思う。

【意見】 (下平豊丘村長)

移住・定住について詳しい人の話を聞いたところ、「都市部の人間は行政を信じていない」とのこと。よってそういう事業を興していくのであれば、例えば東急のデベロッパーと一緒にやりながら伊那谷全体を考えて行っていく。すでに茅野は大手と組んでいる。そろそろ飯田下伊那もリニア・三遠南信に向けて、町村同士で欲しいものを引っ張り合わないようにするべきである。それには伊那谷全体を俯瞰する中で開発業者と行政が手を組めば、ひとつのまとまった発展型が得られると思う。ぜひともそういった点も考慮していただきたい。

●飯田建設事務所

…口頭による説明 (西元所長)

先週も警報・注意報等がかなり出ており、8月2日には松川大鹿線・赤石岳公園線等で土砂流出があり、松川大鹿線は全面通行止めとなっている。これからの台風シーズン等に備えて取り組んでまいりたい。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

●飯田保健福祉事務所

…口頭による説明（寺井所長）

感染症については時期によって増えたり減ったりさまざまである。ヘルパンギーナについては当地域において特段問題ない。県下の中では一時的にヘルパンギーナが流行したが、それがずっと持続するわけではない。今の時点では特段心配いただく必要はない。

5 今後の日程

8月22日（月） 南信州広域連合議会

9月16日（金） 南信州広域連合会議

6 閉会…15:13